

上御開拓之新田島より作出候米穀之増加御江戸大坂を集り候故近年之下直と奉察上候御事
 』(享保16年10月大坂の米仲買から提出された言上書。元禄・享保期の米価変動について

5 小崎隆三より引用)

ここに示されてゐるように、享保7年以降
 豊作続きの上に近年の新田開発により各地の
 産米が増大した。

10 ここぞ享保の米価の低落による一つの現象
 として、身分制の強化についてみてみよう。

18世紀になると、幕藩体制が動揺を示しはじめ、身分制が強化されたことはよく知られて
 いる。この原因については現在明確な論理は
 ない。例えば、原田伴彦は其著、「部落の歴史と解放運動」の中で身分制の強化を凶作に
 15 によるものとしてゐる。しかし、本稿の理論からすれば、身分制の強化は凶作でなく米穀の
 過剰生産から来るものではないと見てゐる。

このことを実証するものとして広島藩の場合
 をあげておく。享保十一年の『家中不勝手

つき知行免状し、役約を申渡す覚書の中に次のような一文がある。

『御勝手向え儀、近年御役約被仰付候処、一兩年に至り候而者米も下直に相成、第一御家中之者供及難儀候段難被捨置、御戻し米被仰付、弥増之御差聞於江戸公儀御勤之儀者格別、御一家様方之御贈答等一切御断被仰、御国方に而者猶以稠數御役約可被遊与恩召…………』
(広島県史より)

この享保十一年には広島藩において身分制の強化策として種々の役約令が出されるのである。例えば、寺社方役約令、郡方役約令、江戸方役約令、町方役約令、かわた方役約令である。

このようにして、身分制の強化は行われたが、やがて、これも維持できなくなる次のような現象が生じてくる。すなわち、小作・地主関係の成立、穀物生産から綿生産への移行、農村から都市への人口移動（後に「人返し令」も出される）である。

ス、フランスの場合

1630年代から1730年代に至る100年間は長期的「不況」の時期とされている。この原因は、穀物価格の長期的停滞乃至低落の中に求められるのが常である。以下に「岩波講座世界歴史14 フランス絶対王政期の農村社会」で遅塚忠躬氏の引用したグラフを再掲する。この時代の中で誕生したクネーが農業を生産的部門とし、商業を非生産的部門と説いた（重農主義）ように、この時代のフランスは、また農業主体の国家であった。この中で、穀物価格の低落は、市民の土地の増加、農村の階級分化、農民の移動を引き起こしていったのである。

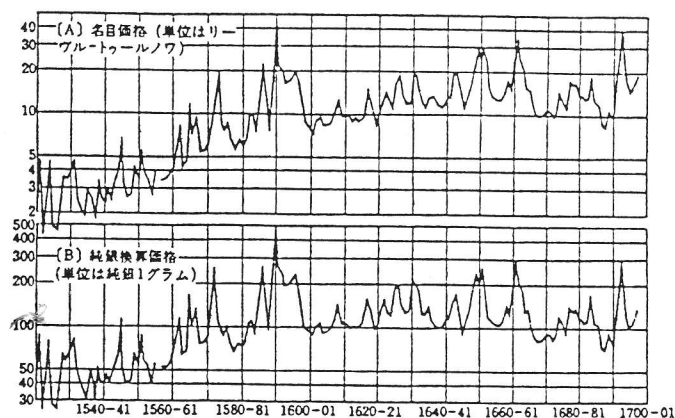


図1 パリにおける小麦価格 (1スタイエードゥーパリ=156リットル当り)

【資料】 M. Boulant et J. Meuvret, *Prix des céréales extraits de la mercuriale de Paris*, tome II, Paris, La VI^e Section de L'École Pratique des Hautes Études, S. E. V. P. E. N., 1962, pp. 152-153.

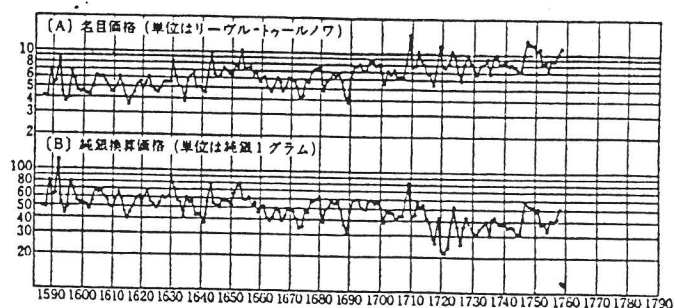


図2 ベジエ(ラングドック)における小麦価格 (1スティエードゥーベジエ=66リットル当り)

〔資料〕 E. Le Roy Ladurie, *Les paysans de Languedoc*, tome II, Paris, La VI^e Section de L'École Pratique des Hautes Études, S. E. V. P. E. N., 1966, pp. 946-947.

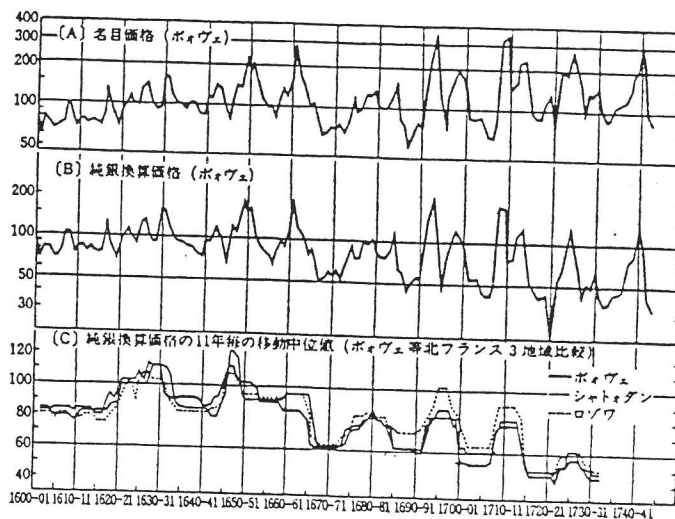


図3 ボエヴエ等における小麦価格 (1601-56年を100とした指数)

〔資料〕 P. Goubert, *Beauvais et le Beauvaisis de 1600 à 1730*, tome II, Paris, La VI^e Section de L'École Pratique des Hautes Études, S. E. V. P. E. N., 1960, Atlas, pp. 78-79, 92-93.

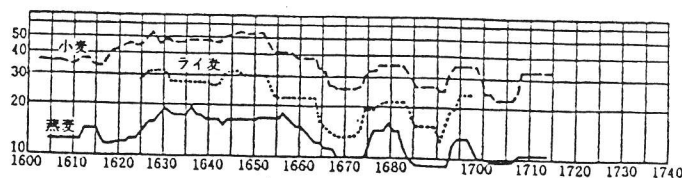
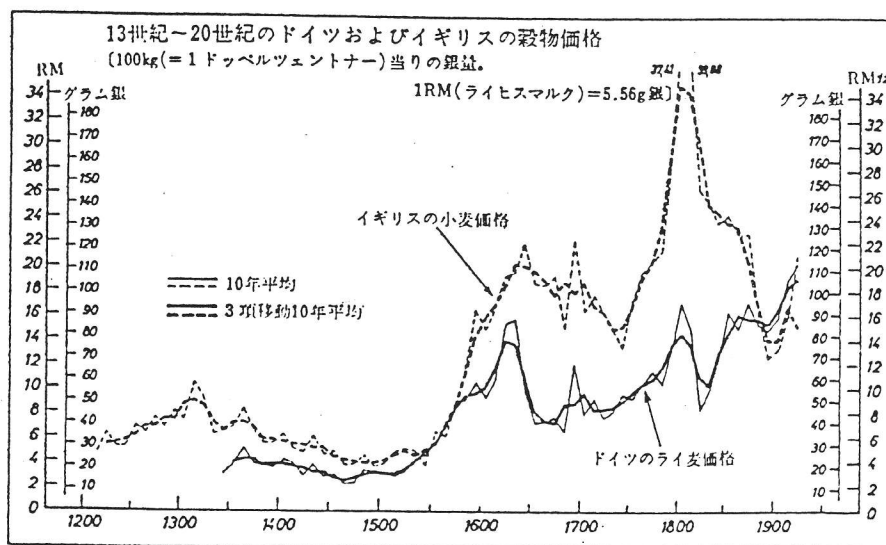


図4 アミアンにおける穀物価格 (1スティエーダミアン=34.7リットル当りソル、貨幣の食金属含有量を算入した修正値、11年毎の移動中位値)

〔資料〕 P. Deyon, *Amiens, capitale provinciale*, Paris, Mouton, 1967, pp. 504-505.

3. イギリス・ドイツの場合

まず、『W = 3 - ヘル ドイツ農業発展の三段階』よりイギリス・ドイツの麦価の価格変動を示すグラフを掲げる。



この麦価の価格の変動を整理すると次のよ

うになる。

	1350年～1550年	1550年～1630年	1630年～1750年
イギリス	下落	上昇	下落
ドイツ	下落	上昇	上昇

イギリスにおいて1550年から1630年の間、
 麦価の価格は上昇してゐる。しかし、イギリ
 スは、この間にエリザベス一世の絶対主義の
 時代を向え、トーマス・モアが、「羊が人間
 5 を食う時代」と呼んだ第一次困乏込みが行な
 われてゐる。そして、この時代は価格革命と
 呼ばれる、メキシコやペルーの銀が、ヨーロ
 ッパに大量に流入し、物価が急騰した時代で
 ある。一般には、十六世紀は新大陸からの貴
 10 金属の流入や商業・貿易の拡大により一般的
 「好況」にあつたとされる。しかし、本稿で
 はエリザベス一世の時代は、穀物の過剰生産
 の時代であり、価格は上昇してゐるが、穀物
 の相対価格は低落してゐたと考えられる。こ
 15 れを実証してみよう。

農業保護法 (An Acte for the Maintenance of
 Husbandrie & Tillage) (1597年~1598年) より『そして
 (エリザベス) 女王の治世第35年に、一つに
 は当時、本王国において穀物が誠に豊富かつ
 廉価なる理由をもち、一つには本件に関し

著者 泉 宏明

住所 〒739-0145 広島県東広島市八本松町宗吉 92-5

HomePage

http://www7a.biglobe.ne.jp/~popuri_art/izumi/

copyright©2012 泉宏明 all rights reserved.